

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年10月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P2～3)
 - 1 中部地区普及事業推進協議会 調査研究を実施
 - 2 国富町せんぎり大根生産者大会の開催
 - 3 10月期子牛せり市が開催
 - 4 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催
 - 5 第66回宮崎県畜産共進会(肉用種種牛の部)が開催

- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P4～6)
 - 1 青年等就農計画の作成支援
 - 2 佐土原SAP全体会の開催
 - 3 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催
 - 4 Dプロ生産者研修会を開催
 - 5 綾町でオーガニックスクールの水稲生産支援
 - 6 中部地区サツマイモ基腐病対策会議の開催
 - 7 跡江、下小松地区で水田ゴボウの実証展示ほを設置
 - 8 散水器具実演会を開催
 - 9 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会で水田裏作について検討
 - 10 令和7年度JAみやざき宮崎中央地区本部茶部会実績検討会
 - 11 JA宮崎中央地区本部菊部会国富支店の現地検討会が開催
 - 12 JA宮崎中央洋ラン部会現地検討会が開催
 - 13 JA宮崎中央地区本部ダリア販売会議が開催

 - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P7)
 - 1 国富町で飼料用稲種子生産の支援
 - 2 JAうまいこめづくり研究部会の実績検討会を実施
 - 3 中部地区果樹技術員会が開催
 - 4 JA宮崎中央地区本部ハウス金柑栽培講習会が開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 中部地区普及事業推進協議会 調査研究を実施

9日、産地承継をテーマとした調査研究を実施し、関係機関12名、生産者3名が参加しました。

調査先の熊本県芦北地域では、研修生が離農者の園地を一時管理。管理していた園地をそのまま引き継いで就農する「リリーフ園制度」を構築。果樹において、スムーズな園地の承継を実現しています。

当日は、取り組みの詳細や工夫している点等について話を伺い、今年度就農した新規就農者の園地を確認しながら意見交換を行いました。今後、管内の承継について議論する際に参考にしていきます。



【新規就農者園地】

2 国富町せんぎり大根生産者大会の開催

28日、国富町役場で開催されました。

町から令和6年度産の生産実績・7年度生産計画の報告や生産者の表彰が、JAからは異物混入対策や今後の栽培管理の説明が行われました。

普及センターは、昨年発生が多かった病害の特徴や対策について説明をしました。

今後とも関係機関と一体となり、せんぎり大根の安定生産へ向けた支援を行っていきます。



【せんぎり大根生産者の表彰】

3 10月期子牛せり市が開催

10日と11日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計627頭（雌：280頭、去勢：347頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、普及センターから「秋、繁殖成績が上がる時に考えること」について講演を行いました。

なお、今回子牛平均価格は、雌620千円（前回比24千円安）、去勢723千円（前回比27千円高）、総平均677千円（前回比4千円高）という結果になりました。



【研修会に参加する生産者】

4 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催

15日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による11月期子牛せり市に向けた10月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、佐土原支店の青木俊樹氏の「ゆりな」号（白隆鵬産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長から発育良好、体の伸び、深さ、前中後軀の釣り合い、骨じまりが評価されていました。



【優等1席「ゆりあ」号】

5 第66回宮崎県畜産共進会(肉用種種牛の部)が開催

4日、都城地域家畜市場で開催され、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部から代表牛9頭が出場しました。審査の結果、第1類で宮崎市の増田裕輔さんの「よかよ538」号(二刀流産子)が優等4席を受賞しました。



【出場の準備を行う生産者と技術員】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

【総1・中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保育成】

1 青年等就農計画の作成支援

10月は4名の就農計画作成支援を実施しました。それぞれ就農予定者との相談をとおして、中長期的な視点で計画を考えるように促しました。

2 佐土原SAP全体会の開催

31日、佐土原で開催されました。11月に保育園で行われるマーケットへの野菜の提供や支部の勉強会、視察研修について話し合いが行われました。勉強会は12月、視察研修は2月の開催予定となりました。12月には冬期大会も控えており、今後とも宮崎市と支援していきます。

3 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催

30日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークスのラボにおいて、企画運営委員会定例会が開催され、関係者4名が出席しました。定例会では、農業実習や座学の進捗状況の確認と11月以降の取組内容の検討を行いました。

また、町役場とともにスクール卒業生等の就農計画作成支援を定期的に行っており、今後も関係機関と連携して、支援を続けていきます。

【総3・施設園芸版スマート農業による高収益園芸産地の育成】

4 Dプロ生産者研修会を開催

28日、JAみやざき宮崎営農センターで開催し、普及センターから「植物生理の基礎知識について」というテーマで説明しました。研修会の内容は、サテライト会場としてJA各支店をオンラインで接続し、リアルタイムで受講できる他、録画での視聴も可能となっています。研修会終了後の質問では、Dプロアプリの本格的稼働に向けて活発に質問が出されました。

【総4・マーケットインに基づく新たな土地利用型営農の展開】

5 綾町でオーガニックスクールの水稲生産支援

27日、綾町上畑にて研修生ら3名と、「ヒノヒカリ」の成熟調査および坪刈りを行いました。

有機質肥料を用いた無農薬栽培が行われ、合鴨ロボや紙マルチ田植機による除草も実施してきました。研修生の方々からは、稲の生育や病害などに高い関心が寄せられました。

今後、研修生とともに収量品質調査を行い、栽培技術の修得に向けて支援していきます。



【研修生との調査】

6 中部地区サツマイモ基腐病対策会議の開催

7日、普及センターで関係機関を参集し開催しました。基腐病だけではなく近年問題となっている茎根細菌病についても発生状況や対策についての情報提供を行いました。

また、11月に予定しているかんしょ栽培講習会の実施場所や内容について検討を行いました。

今後、各市町で基腐病対策等の対策について研修会を行います。



【基腐病対策会議】

7 跡江、下小松地区で水田ゴボウの実証展示ほを設置

15日、早期水稲裏作として実証展示ほの播種作業を行いました。同地区では、過去に水田裏作品目として、高菜を栽培していましたが、他の主要品目と作業時期が重なることから、新たな品目候補として水田ゴボウが注目されました。

今後も継続して巡回を行い、収益や作付体系の適性を確認していきます。



【水田ゴボウの播種作業】

8 散水器具実演会を開催

27日、宮崎市田野町の桃ノ木原地区内ほ場で実施しました。生産者3名、関係機関10名の参加があり、2種類のスプリンクラー、散水チューブの散水の実演や、露地品目における散水の重要性について説明を行いました。今後も実演会を継続して行い、畑かん営農を推進していきます。



【散水実演会】

9 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会で水田裏作について検討

15日、宮崎市本郷南方地区で開催され、将来の営農の方向性についての検討と、ほ場での水田裏作品目の検討が行われました。

普及センターからは水田裏作で栽培可能な品目を説明しました。参加した生産者からは「先進地となる産地や販売先候補に視察に行きたい」という前向きな意見が出されました。今後とも水田裏作品目選定の支援をしていきます。

【専2・国内外の需要に対応した茶産地の育成】

10 令和7年度JAみやざき宮崎中央地区本部茶部会実績検討会

21日、宮崎市内で、JAみやざき宮崎中央地区本部茶部会9名を対象に、実績検討会でGAPの基礎や作業安全の説明を行いました。

今後も、講習会や茶園巡回を行い、GAPや農作業安全の取組等を支援をしていきます。

【専6・生産技術向上による花き産地の維持】

11 JA宮崎中央地区本部菊部会国富支店の現地検討会が開催

16日、国富町において、生産者14名、関係機関5名が参加し開催されました。

会長挨拶後に、JAからの直近の情勢報告、年末出荷の予約販売分の出荷案について説明がありました。普及センターからは、高温対策（9月出荷作型における遮熱被覆資材）の展示ほ結果やアザミウマ類やコナジラミ類の害虫対策について説明しました。その後、部会員及び関係機関で全戸のほ場を回りました。年末出荷作型の消灯前の生育状況は概ね良好で、管理状況について意見交換が交わされ有意義な会となりました。



【菊部会現地検討会】

12 JA宮崎中央洋ラン部会現地検討会が開催

23日、宮崎市において、生産者14名、関係機関3名が参加し開催されました。

会長挨拶後に、JAから直近のコチョウランの出荷の情勢報告等について説明がありました。その後、今後の部会活動について検討がされました。普及センターからは、ケナガコナダニを中心とした防除暦の作成をJAと連携して行う旨を説明し、現状の防除状況を確認するため、確認シートの配布や記入を呼びかけました。その後、現地検討が行われ、生育状況や管理状況について活発な意見交換がなされました。



【洋ラン部会現地検討】

13 JA宮崎中央地区本部ダリア販売会議が開催

29日、宮崎市で、生産者7名、関係機関4名、取引のある花き3市場3名が参加しました。

JAの担当者や市場担当者から令和6年度の販売実績報告や令和7年度の栽培品種の構成について説明があった後、各市場から現在作付けされている品種の評価等について説明がありました。普及センターからは、秋田県とリレー出荷を行っているNAMAHAJEシリーズの第13期生の作を通した特性調査の結果を報告し、第14期生新品种の再周知と1番花の状況の報告を行いました。

これらの情報を踏まえ、来作で作付けする品種や面積について活発に意見交換が行われました。

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 国富町で飼料用稲種子生産の支援

2日、国富町塚原において、ミナミユタカの種子生産に取り組む組合員18名を対象に、農協、役場、および関係機関と連携し、ほ場審査を実施しました。

続いて16日には、同組合の役員および収穫作業員ら6名とともに、倒伏状況の再確認、収穫適期の判断、ならびに作柄把握を目的とした坪刈り調査を実施しました。

そして24日には、組合員全員に対し、これらの調査結果や本年産の課題などについて説明を行いました。

今後も生産物審査の結果などを踏まえ、安定した種子生産の支援を継続してまいります。



【ほ場審査内容の説明】

2 JAうまいこめづくり研究部会の実績検討会を実施

1日、宮崎市内で、特別栽培米生産に取り組む部会員約40名を対象に本年産の収量や品質の状況の説明を行いました。そして、普及センターやJAが行った玄米収量や検査等級及び食味データをもとに今年産の特徴などを説明しました。

今後も、講習会や現地指導を行い、収量品質の安定に向け支援していきます。

3 中部地区果樹技術員会が開催

3日、宮崎市JA-AZMにて、関係機関18名が参加し、定例会を開催しました。

JAみやざきから品目ごとの販売実績の報告、JAみやざきの各地域本部の営農指導員から生育概況の報告等がありました。普及センターからは、みかん収穫ワークショップについての報告等を行いました。その後、栽培技術資料の検討等を行い、活発な意見交換、情報交換が行われました。

今後とも関係機関一体となり果樹振興に取り組んでいきます。

4 JA宮崎中央地区本部ハウス金柑栽培講習会が開催

15、16日、部会各支部の部会員ほ場において開催され、生産者21名、関係機関が参加しました。JAによる当面の管理についての説明や園地巡回が部会員と共に行われました。JAと普及センターで連携し、着果、肥大状況を確認し、管理状況について聞き取りを行い、状況に応じた助言を行いました。

生産者間でもそれぞれの管理状況について活発な意見交換がなされ有意義な機会となりました。すべての園地で摘果作業が終了した状況であり、今後順調に肥大が進むものと思われます。



【金柑栽培講習会】

